

実技教科・体育、校内学習 「跳び箱」

中華人民共和国・北京日本人学校

I 前提

学校環境

在籍児童生徒数・教職員数 小学部約 150 名、中学部約 50 名、教職員約 30 名

北京日本人学校は文部科学省より認定を受けた在外教育施設であり、中華人民共和国外交部の承認を得て、北京市教育局に登録された学校である。1974 年に補習校として始まり、1976 年に開校し、小学部と中学部を併設している。

コロナウイルスの感染拡大に伴い、2019 年度の最終 2 ヶ月間は、児童生徒の登校がかわず、中国の SNS（WeChat）動画配信などで授業を進めざるを得ない状況だった。

2020 年度は、全学年又は一部の学年で会議アプリ Zoom（4 月～7 月）及び DingTalk（8 月以降）を用いてオンライン授業を実施してきた。全学年の登校再開以降も中国入国時の防疫体制により、2 週間から 3 週間のホテル等での集中隔离観察が求められているため、その間の学習保障について可能な限りオンラインでの授業配信をしてきた。

課題と目標

- » 自らの跳び箱の跳び方と見本の跳び方を比較して、より上手に跳べるきっかけを作る。
- » 正しいフォームで跳べるように動画再生アプリ（遅延再生）を効果的に利用できるようにする。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

- » iPad
 - »  カメラ（スローモーション）
 - »  遅延カメラ（〇秒遅れで再生）Delayed Camera（遅延カメラアプリ）
- ※ カメラ越しに写している動画を、指定秒数遅れた映像で再生できる、追っかけ再生アプリ

具体的な活用方法

- あらかじめ見本となる跳び箱の跳び方の動画を見て、正しい跳び方のイメージをもたせる。
- » カメラアプリを利用して、自分の跳び方を確認する。跳べないポイントがわからない児童生徒に関しては、スローモーション撮影を行い、動画を止めながらポイントを絞って指導を行う。
 - » 遅延カメラアプリを使って、自分の跳び方を常に意識しながら跳ぶようにする。

1. 授業のめあてを確認する。「正しいフォームで開脚跳びをしよう」

- » 最初にプロジェクターに映した開脚跳びの動画を教師の解説とともに見る。そのあと、個別に動画を見て、跳ぶときのポイントを確認する。練習中でも動画を確認してもよいことを伝えておく。

2. 開脚跳びの練習をしよう

- » 児童生徒がペアになって跳んでいるところをお互いにカメラアプリで撮影する。その後、動画を見ながら跳ぶポイントの修正を行う。動画を撮る角度を変えたり、スローモーション撮影を行ったり、撮る側も跳ぶポイントを意識させる。
- » 跳び箱を跳ぶことがメインなので、ポイントを理解し、正しいフォームで跳べるように慣れてきたら、タブレットを据え置きにしておき、遅延カメラアプリを利用して自分自身で跳ぶ姿を確認する。プレイバック方式である。

3. 授業の振り返り

- » ワークシートを作成し、タッチペンを使って児童生徒に今日の授業の振り返りをさせる。また今日、自分で一番良かったと思う跳び方の動画を選んで保存しておく。

3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

- » 授業のはじめや授業の途中で正しいフォームの跳び方の動画を見ることで、今日の目指すめあてをいつでも確認することができる。また、頭の中で跳び方のイメージをすることができる。
- » カメラで撮影することで、客観的に自分の跳び方を見ることができる。また、ペアの撮影を行うことで跳ぶポイントを撮影時にも意識することができる。
- » 日々の動画をためておくことで、最初できなかったことができるようになった自分の成長を確認ことができ、自尊心の向上につながると考える。また、その動画を保護者に見せることで、保護者も学校の様子を知るきっかけになる。
- » ワークシートや動画を授業記録として、評価の材料として使用できる。